

浜の活力再生プラン (第2期)

1 地域水産業再生委員会

組織名	海陽町地域水産業再生委員会 ID 番号：1129007
代表者名	会長 島崎 勝弘

再生委員会の構成員	浅川漁業協同組合、鞆浦漁業協同組合、宍喰漁業協同組合、海陽町
オブザーバー	徳島県（南部総合県民局水産振興）、国府町農事放送農業協同組合

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	徳島県海陽町浅川地域 ※組合員数38名 角網2名、あい網16名、小網20名、海士22名、一本釣り19名、観光磯釣3名、養殖2名 計84名（重複者有り）
-----------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当地域は、徳島県の南部に位置し、黒潮が流れ込む太平洋に面した豊かな漁場を持ち、養殖漁業や採貝漁業が盛んな地域であり、漁業者団体として浅川漁業協同組合（以下「漁協」とする。）が組織されている。

しかし近年、当地域における漁業者の高齢化及び後継者不足（組合員数：平成25年度42名、平成30年度38名で4名減）や魚価の低迷、磯焼けに伴う藻場の悪化の原因による貝類の不漁（水揚げ量：平成25年度43t、平成30年度22tで21t減）（採貝藻の水揚げ量 平成25年度 アワビ：0.1t、トコブシ：2.5t、ヒジキ：1.6t 平成30年度 アワビ：0.1t、トコブシ：2.6t、ヒジキ：1.6tでトコブシ：0.1t増）により、漁業者の所得が低迷している。また、船のエンジンの燃費が悪いため、漁に出るたび燃油代で赤字になる組合員も多く存在するほど、漁業経営体維持は困難を極めている。

こうした状況のなか、当漁協では漁業体験や魚食普及を通じた地域交流を目指し、「養殖漁業体験」を実施している。ハマチやタイの養殖漁業体験は、体験者には好評であるが利用者の増にはつながっておらず、インストラクターの育成や他の体験プログラムとの連携など改善が必要である。また、できるだけ多くの漁業者が活動に協力できるよう、高齢な組合員でも参加・協力できる体験メニューを検討していく必要がある。さらに、漁業者だけでなく漁協にとっても事業を実施することで利益に繋がるよう考えていく必要がある。

(2) その他の関連する現状等

○海陽町は、平成18年3月に海南町、海部町、宍喰町が合併し誕生した町で、大型定置網漁を主要漁法とする鞆浦漁業協同組合（旧海部町）と、近海マグロ延縄漁業や魚飼付け漁業が盛んな宍喰漁業協同組合（旧宍喰町）と、アワビやトコブシ、テングサ等採貝藻漁業が盛んな浅川漁業協同組合（旧海南町）の3つの漁協がそれぞれの地場を活かし運営を行っている。

○南阿波よくばり体験協議会と連携し、学校教育の修学旅行や総合学習・環境学習、組織や企業の研修等に養殖漁業体験や船釣り、港釣り体験の提供を行っている。

○将来起こるとされる南海大震災に備え、地域住民や漁業者の生命や財産を守るため、作成したBCP計画に基づき、地域全体で避難訓練等を実施し、災害減災対策に努める。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

漁業者の高齢化及び後継者不足により、漁村地域の活力衰退が懸念されるため、経費の削減はもとより6次産業化への取組や体験漁業の充実化、漁業者及び漁協の意識改革を図ることで、所得の向上と活力ある漁村づくりに努める。

◆漁業収入向上のための取組

①採貝採藻漁の充実

過去にこの漁場で採れるアワビ類（トコブシ）や藻類等は品質も良く漁獲量も豊富であり、高値で売買されていたが、近年の温暖化等の影響で海水温の上昇に伴い磯焼けが進み、豊富であった藻が枯れ、採貝の漁獲量も年々減少しているため、各関係者（徳島県、海陽町、徳島大学）等と連携し藻場の改善を図るため、食害対策としてウニの駆除、試験的に有機堆肥を比較的海藻類が生息している場所に投入し、藻場にどのような影響が出るのかをモニタリング調査などに取り組む。また、海上（年2回）、海岸清掃（年3回）にも努め、魅力ある浜にすることで、その場で採れる貝藻の品質が上がり付加価値を付けて販売することで漁業者の所得向上につなげる。

②水産資源の維持

近年、漁獲量は減少しているものの、水揚げ金額は微増しており、（水揚げ高：平成25年度34,775千円、平成30年度38,848千円で4,073千円増）重要な漁獲対象種であるトコブシ種苗の放流（年1回、約3万個）やアオリイカの産卵場（年1回、約50基）を造成

等の取組により、効果が現れている。今後も取組を継続し、漁業資源の維持及び資源回復を図り、漁獲量が増えることでの漁業者の所得向上につなげる。

③体験漁業の充実化

現在漁協と漁業者が実施しているハマチやタイの養殖漁業体験は、体験メニューの説明などは漁業者が対応しているが、現状では体験者への気遣いが少ないため、インストラクターを育成し、サービスの充実化と安全面の向上を図るとともに、利用しやすい時間帯の検討や魚食普及と組み合わせる。また、体験メニューに直売市での買い物やバーベキュー体験を組み込むなどお客様にとって魅力ある内容となるよう検討することで体験者増を目指し、体験料（渡船料、講師料）等の収入向上につなげる。

④鮮度維持による付加価値の向上（衛生管理の強化、ブランド化、意識改革）

これまでの取組により鮮度維持の重要性について理解は深まっているが自分が水揚げした魚介類がどのように値が付き、どのように消費者の手に渡っているのか理解していないところがある。また、漁協は漁業者が水揚げした魚介類を早く入札にかける意識が先行するあまり、魚介類を素手で掴んだり籠に投げ入れている状況が見受けられる。こうした状況を改善するため、漁業者は、少量の魚でも鮮度や水揚げの状態等で魚価の向上つながることを理解し、また、漁協は、漁業者が水揚げしてきた魚を新鮮なまま市場に出す意識を持ち、取る側(漁業者)と売る側(漁協)の魚への愛情意識を統一し組合全体で地域水産物の付加価値向上に取り組むため勉強会(具体的に衛生管理の強化や鮮度維持に関する勉強会)を年2回、講師を招いての研修会(具体的にはアオリイカやタコなどを統一したメ方を学びブランド化を図る研修会)を年1回実施する。

また、直売市に出店することにより消費者と接する機会をもち、消費者ニーズを知ることで鮮度維持の重要性への理解を深める。

◆漁業コスト削減のための取組

①燃油高騰への対策

燃油の高騰に伴う経費の増大により漁業者の経営圧迫を軽減するため、漁業経営セーフティネットの加入促進を進める。

②省燃油活動の推進

操業時の燃油消費量を抑制するため、停留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油活動を推進する。

◆その他

①災害減災対策（※本取組は所得向上やコスト削減の取組ではないが、プラン上重要と考えるため、基本方針には位置づけることとする。）

作成した BCP 計画に基づき、漁業者及び地域住民の生命や財産を守るため、地域全体で避難

訓練等を実施し、災害減災対策を図る。また、避難路の整備や事務所の耐震化等も含め検討する。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

徳島県漁業調整規則により、水産動植物の採捕期間、体長の制限を設けている。
また、トコブシ種苗の放流等行った場所を禁漁区に指定し資源維持にも努めている。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和2年度）以下の取組により基準年と比較して5.11%漁業所得を向上

漁業収入向上のための取組	<p>●以下の取組により漁業収入を2.84%向上させる。</p> <p>①採貝採藻漁の充実</p> <ul style="list-style-type: none">・当地区の漁場で採れるアワビ類や藻類等は品質も良く漁獲量も豊富であり、高値で売買されていたが、近年の温暖化等の影響で海水温の上昇に伴い磯焼けが進み、豊富であった藻が枯れ採貝の漁獲量も年々減少しているため、各関係者（徳島県、海陽町、徳島大学）等と連携し藻場の改善につながる事業（ウニの駆除や試験的調査として有機堆肥海上投入）を実施する。・漁場の環境改善による生産力向上を図るため、年2回海上、年3回海岸清掃を実施する。 <p>②水産資源の維持</p> <ul style="list-style-type: none">・近年、漁獲量の減少に伴う水揚げ金額の減少傾向が見られるため、重要な漁獲対象種であるトコブシ種苗（年1回、約3万個）、伊勢エビの規格外の放流（エビ網期間中）やアオリイカの産卵場（年1回、約50基）の造成を実施することにより資源増大を図る。 <p>③体験漁業の充実化</p> <ul style="list-style-type: none">・現在漁協と漁業者が実施している養殖漁業体験は作業中の体験者への気遣いが少ないため、漁業者のインストラクターを育成し、サービスの充実化と安全面の向上を図るとともに利用しやすい時間帯等の検討を実施する。・養殖漁業体験の他、採貝藻漁業・漁場を活かした体験プログラムの検討や魚料理教室や食育など魚食文化普及と漁業体験との組み合わせにより、収益性の高い事業展開を図る。 <p>④鮮度保持による付加価値の向上（衛生管理の強化、ブランド化、意識改革）</p> <ul style="list-style-type: none">・鮮度保持による魚価向上を目指し、漁業者は少量の魚でも鮮度や水揚げの状態等で魚価の向上つながることを理解し、漁協は漁業者が水揚げしてきた
--------------	--

	魚を新鮮なまま市場に出す意識を持ち、取る側売る側の魚への愛情意識を統一し組合全体で意識改革に取り組むため勉強会（具体的には、衛生管理の強化や鮮度維持に関する勉強会）を年2回、講師を招いての研修会（具体的には、アオリイカやタコなどを統一したメ方を学びブランド化を図る研修会）を年1回実施する。
漁業コスト削減のための取組	<p>●以下の取組により漁業コストを2.27%削減する。</p> <p>①燃油の急騰に対する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃油の急騰による漁業コストの圧迫に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。（新規で1経営体加入を目指す。） <p>②省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油につながる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築等事業、農山漁村未来創造事業、海陽町水産振興事業、海陽町元気になる「和」事業

2年目（令和3年度）以下の取組により基準年と比較して6.03%漁業所得を向上

漁業収入向上のための取組	<p>●以下の取組により漁業収入を3.76%向上させる。</p> <p>①採貝採藻漁の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当地区の漁場で採れるアワビ類や藻類等は品質も良く漁獲量も豊富であり、高値で売買されていたが、近年の温暖化等の影響で海水温の上昇に伴い磯焼けが進み、豊富であった藻が枯れ採貝の漁獲量も年々減少しているため、各関係者（徳島県、海陽町、徳島大学）等と連携し藻場の改善につながる事業（ウニの駆除の継続・昨年試験調査として有機堆肥海上投入した藻場が昨年度とどう変化したかを調査し、改善が見込まれるようであれば継続して投入する。）を実施する。 ・漁場の環境改善による生産力向上を図るため、年2回海上、年3回海岸清掃を実施する。 <p>②水産資源の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、漁獲量の減少に伴う水揚げ金額の減少傾向が見られるため、重要な漁獲対象種であるトコブシ種苗（年1回、約3万個）、伊勢エビの規格外の放流（エビ網期間中）やアオリイカの産卵場（年1回、約50基）の造成を実施し続けることにより資源増大を図る。 <p>③体験漁業の充実化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在実施している養殖漁業体験は作業中はほぼほったらかし状態で体験者への気遣いが少ないため、漁業者のインストラクターの育成し、サービスの
--------------	--

	<p>充実化と安全面の向上を図るとともに利用しやすい時間帯等の検討を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 養殖漁業体験の他、採貝藻漁業・漁場を活かした体験プログラムの検討や魚料理教室や食育など魚食文化普及と漁業体験との組み合わせにより、収益性の高い事業展開を図る。 ・ 体験の実施体制（実施者、実施場所）や体験料等を決め 9 月からの受け入れを実施する。 <p>④鮮度維持による付加価値の向上（衛生管理の強化、ブランド化、意識改革）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鮮度保持による魚価向上を目指し、漁業者は少量の魚でも鮮度や水揚げの状態等で魚価の向上につながることを理解し、漁協は、漁業者が水揚げしてきた魚を新鮮なまま市場に出す意識を持ち、取る側売る側の魚への愛情意識を統一し組合全体で取り組むため勉強会（具体的には、衛生管理の強化や鮮度保持に関する勉強会）を年 2 回、講師を招いての研修会（具体的には、アオリイカやタコなどを統一したメ方を学びブランド化を図る研修会）を年 1 回実施する。
漁業コスト削減のための取組	<p>●以下の取組により漁業コストを 2. 27%削減する。</p> <p>①燃油の急騰に対する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 燃油の急騰による漁業コストの圧迫に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。（新規に 2 経営体加入を目指す。） <p>②省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 停留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油につながる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティネット構築等事業、農山漁村未来創造事業、海陽町水産振興事業、海陽町元気になる「和」事業</p>

3 年目（令和 4 年度）以下の取組により基準年と比較して 9. 36%漁業所得を向上

漁業収入向上のための取組	<p>●以下の取組により漁業収入を 7. 09%向上させる。</p> <p>①採貝採藻漁の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当地区の漁場で採れるアワビ類や藻類等は品質も良く漁獲量も豊富であり、高値で売買されていたが、近年の温暖化等の影響で海水温の上昇に伴い磯焼けが進み、豊富であった藻が枯れ採貝の漁獲量も年々減少しているため、各関係者（徳島県、海陽町、徳島大学）等と連携し藻場の改善につながる事業（ウニの駆除の継続・藻を食べ尽くす魚の駆除（捕獲））に向けた検討会を開
--------------	---

	<p>催)を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回海上、年3回海岸清掃を実施する。 <p>②水産資源の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、漁獲量の減少に伴う水揚げ金額の減少傾向が見られるため、重要な漁獲対象種であるトコブシ種苗(年1回、約3万個)、伊勢エビの規格外の放流(エビ網期間中)やアオリイカの産卵場(年1回、約50基)の造成を実施し続けることにより資源拡大を図る。 <p>③体験漁業の充実化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在漁協と漁業者が実施している養殖漁業体験は作業中はほぼほったらかし状態で体験者への気遣いが少ないため、漁業者のインストラクターの育成し、サービスの充実化と安全面の向上を図るとともに利用しやすい時間帯等の検討を実施する。 ・養殖漁業体験の他、採貝藻漁業・漁場を活かした体験プログラムの検討や魚料理教室や食育など魚食文化普及との学習と体験を組み合わせ等の検討により、収益性の高い事業展開を図る。 ・体験のさらなる利用増に向け、地元ホテルやまぜのおかオートキャンプ場と連携した体験型宿泊プランとして実施する。 <p>④鮮度維持による付加価値の向上(衛生管理の強化、ブランド化、意識改革)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鮮度保持による魚価向上を目指し、漁業者は少量の魚でも鮮度や水揚げの状態等で魚価の向上につながることを理解し、漁協は、漁業者が水揚げしてきた魚を新鮮なまま市場に出す意識を持ち、取る側売る側の魚への愛情意識を統一し組合全体で取り組むため勉強会(具体的には、衛生管理の強化や鮮度保持に関する勉強会)を年2回、講師を招いての研修会(具体的には、アオリイカやタコなどを統一したメ方を学びブランド化を図る研修会)を年1回実施する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>●以下の取組により漁業コストを2.27%削減する。</p> <p>①燃油の急騰に対する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃油の急騰による漁業コストの圧迫に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。(新規で1経営体加入を目指す。) <p>②省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油につながる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティネット構築等事業、農山漁村未来創造事業、海陽町水産振興事業、海陽町元気になる「和」事業</p>

4年目（令和5年度）以下の取組により基準年と比較して10.30%漁業所得を向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>●以下の取組により漁業収入を8.03%向上させる。</p> <p>①採貝採藻漁の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去にこの漁場で採れるアワビ類や藻等は品質も良く漁獲量も豊富であり、高値で売買されていたが、近年の温暖化等の影響で海水温の上昇に伴い磯焼けが進み、豊富であった藻が枯れ採貝の漁獲量も年々減少しているため、各関係者（徳島県、海陽町、徳島大学）等と連携し藻場の改善につながる事業（ウニの駆除の継続・藻を食べ尽くす魚の駆除（捕獲）の実施）を実施する。 ・年2回海上、年3回海岸清掃を実施する。 <p>②水産資源の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、漁獲量の減少に伴う水揚げ金額の減少傾向が見られるため、重要な漁獲対象種であるトコブシ種苗（年1回、約3万個）、伊勢エビの規格外の放流（エビ網期間中）やアオリイカの産卵場（年1回、約50基）の造成を実施し続けることにより資源が増え、当漁協の水揚げ量も増え、漁業者の所得向上につながる。 <p>③体験漁業の充実化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在漁協と漁業者が実施している養殖漁業体験は作業中はほぼほったらかし状態で体験者への気遣いが少ないため、インストラクターの育成し、サービスの充実化と安全面の向上を図るとともに利用しやすい時間帯等の検討を実施する。 ・養殖漁業体験の他、採貝藻漁業・魚場を活かした体験プログラム、魚料理教室と言った魚食文化普及との学習と体験を組み合わせ等の検討により、収益性の高い事業展開を図る。 ・体験のさらなる利用増に向け、地元旅館やオートキャンプ場と連携した体験型宿泊プランとして実施する。 <p>④鮮度維持による付加価値の向上（衛生管理の強化、ブランド化、意識改革）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鮮度保持による魚価向上を目指し、漁業者は少量の魚でも鮮度や水揚げの状態等で魚価の向上につながることを理解し、漁協は、漁業者が水揚げしてきた魚を新鮮なまま市場に出す意識を持ち、取る側売る側の魚への愛情意識を統一し組合全体で取り組むため勉強会（具体的には、衛生管理の強化や鮮度保持に関する勉強会）を年2回、講師を招いての研修会（具体的には、アオリイカやタコなどを統一したメ方を学びブランド化を図る研修会）を年1回実施する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>●以下の取組により漁業コストを2.27%削減する。</p> <p>①燃油の急騰に対する取組</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・燃油の急騰による漁業コストの圧迫に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。(1 経営体加入) <p>②省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油につながる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築等事業、農山漁村未来創造事業、海陽町水産振興事業、海陽町元気になる「和」事業

5年目（令和6年度）以下の取組により基準年と比較して11.23%漁業所得を向上

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none"> ●以下の取組により漁業収入を8.96%向上させる。 <p>①採貝採藻漁の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去にこの漁場で採れるアワビ類や藻等は品質も良く漁獲量も豊富であり、高値で売買されていたが、近年の温暖化等の影響で海水温の上昇に伴い磯焼けが進み、豊富であった藻が枯れ採貝の漁獲量も年々減少しているため、各関係者（徳島県、海陽町、徳島大学）等と連携し藻場の改善につながる事業（ウニの駆除の継続・藻を食べ尽くす魚の駆除（捕獲）の継続）を実施する。 ・年2回海上、年3回海岸清掃を実施する。 <p>②水産資源の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、漁獲量の減少に伴う水揚げ金額の減少傾向が見られるため、重要な漁獲対象種であるトコブシ種苗（年1回、約3万個）、伊勢エビの規格外の放流（エビ網期間中）やアオリイカの産卵場（年1回、約50基）の造成を実施し続けることにより資源が増え、当漁協の水揚げ量も増え、漁業者の所得向上につながる。 <p>③体験漁業の充実化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在漁協と漁業者が実施している養殖漁業体験は作業中の体験者への気遣いが少ないため、インストラクターを育成し、体験マニュアルの作成と安全面の向上を図るとともに利用しやすい時間帯等の検討を実施し、積極的な広報活動を実施する。 ・養殖漁業体験の他、採貝藻漁業・魚場を活かした体験プログラム、漁港を活用した釣堀の展開、魚料理教室と言った魚食文化普及との学習と体験を組み合わせ等の検討により、収益性の高い事業展開を図る。 ・体験のさらなる利用増に向け、町外（牟岐町、美波町、東洋町）のホテル等と連携した体験型宿泊プランとして実施する。 <p>④鮮度維持による付加価値の向上（衛生管理の強化、ブランド化、意識改革）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鮮度保持による魚価向上を目指し、漁業者は少量の魚でも鮮度や水揚げの
--------------	--

	<p>状態等で魚価の向上につながることを理解し、漁協は、漁業者が水揚げしてきた魚を新鮮なまま市場に出す意識を持ち、取る側売側の魚への愛情意識を統一し組合全体で取り組むため勉強会（具体的には、衛生管理の強化や鮮度保持に関する勉強会）を年2回、講師を招いての研修会（具体的には、アオリイカやタコなどを統一したメ方を学びブランド化を図る研修会）を継続して実施することにより、魚価の向上を図り、所得向上に繋げる。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>●以下の取組により漁業コストを2.27%削減する。</p> <p>①燃油の急騰に対する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃油の急騰による漁業コストの圧迫に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。（1経営体加入） <p>②省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油につながる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティネット構築等事業、農山漁村未来創造事業、海陽町水産振興事業</p>

(5) 関係機関との連携

<p>取組の効果が十分に発揮できるよう、行政（徳島県、海陽町）、系統団体（徳島県漁業協同組合連合会、徳島県漁業共済組合等）、メディア（国府ケーブルテレビ）、学校（町内の小中学校、四国大学栄養学科、徳島大学）、ネット業者（あわえ榎）と連携を図るとともに、県内外の流通・販売業者、飲食店、ホテル、福祉施設、病院等についても新たな連携を図る。</p>
--

4 目標

(1) 所得目標

<p>漁業所得の向上 11.23%以上</p>	<p>基準年</p>	<p>平成30年度： 漁業所得 千円</p>
	<p>目標年</p>	<p>令和6年度： 漁業所得 千円</p>

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>別紙参照</p>

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

(3) 所得目標以外の成果目標

産直市への来場者数	基準年	平成 30 年度： 1 回 来場者数 1,000 人
	目標年	令和 6 年度： 1 回 来場者数 1,200 人

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

イベント主催者からの聞き取りによる。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
省燃油活動推進事業	漁業者グループが省燃油活動に積極的に取り組むことで、経費支出の低減を図り、漁業所得の向上を図る。
徳島県農山漁村未来創造事業	ヒラメなどの滞留魚の稚魚やトコブシ・アオリイカなどを地域の漁場に放流することで、安定的な漁獲量を図り、漁業所得の安定化を図る。
海陽町水産振興事業 海陽町元気になる「和」事業	農林水産業の活性化に努めるため、海陽町では条例を制定し様々な施策を実施し、漁業者の所得向上を目指す。
漁業経営セーフティネット構築事業	セーフティネットに加入し今後も起こりつづける燃油高騰による経費支出の増加に備えることにより、漁業所得の安定を図る。